

第3回小学校給食・食育推進委員会 議事要旨

1. 推進委員会（第3回）の概要

- (1) 開催日時：平成28年9月30日（金）13：30～15：30
- (2) 開催場所：神戸市役所1号館14階大会議室
- (3) 出席者：西村、池田、湯田、安東、西川、グスマン、川本、谷、市原、川田、馳川、寺西、松原各委員、大西、川下各オブザーバー

2. 議題

- (1) 第2回小学校給食・食育推進委員会議事要旨の確認
- (2) 小学校給食の内容の充実に向けて（案）
- (3) 意見交換

3. 議事要旨

第3回は、第1～2回の検討をふまえ、小学校給食の内容の充実及び給食費の見直しについて、推進委員会としてのまとめを行うため、川田座長の進行により、各委員に意見をいただいた。今回の意見も加えた最終案を書面決議により諮った上で意見書をまとめることとなった。

議題1 第2回小学校給食・食育推進委員会議事要旨の確認

→内容について確認し、修正事項はなかった。

議題2 小学校給食の内容の充実に向けて（案）

→主な意見は次のとおり。

- ・「平成29年4月の実現を目指す」とあるが、各小学校やその保護者にどのようにして情報を伝達するのか。また、その時期はいつごろか。

（事務局）この推進委員会の意見書をふまえ教育委員会として、給食のあり方とそれに伴う給食費の方針について決定する。その後、教育委員会から各学校に、各学校を通じて保護者にご連絡させていただく。

- ・29年4月改定なら1月の新入学児童への説明会や次年度の準備が始まる3学期の頭には間に合うようにスケジュールを組むことになると思う。

- ・改定が29年4月は妥当だと思う。一方、今年の夏の天候不順により今年度後半の献立は非常に厳しくなると思うが大丈夫か。

（事務局）台風以外にも天候不順で価格の高騰や手に入らない食材が出ている。品質は当然確保した上で、栄養価も維持しつつ、例えばこれまで食材を調達してきた地域以外からも調達を行うなど工夫をして対応していきたい。

- ・安全・安心は基本で、そのなかでより安いものを使ってもらうのが保護者として一番よい。安全に関しては日本全国どこも同じく高い水準だと思うので、安全を強調するあまり「地産地消」と結び付けて神戸市産にこだわる必要はない。神戸市産にこだわって給食費が上がると保護者が誤解しないよう、他と比べてそんなに値段が変わらないなら神戸市産を使うのは当たり前だということを伝えるべき。

(事務局) 安全・安心は基本として給食を提供しているが、それと地産地消とは別の意味で実施している。安全のため何が何でも神戸市産を使用するというのではなく、他と同様の価格帯でならできるだけ地元のものを使用していくという趣旨である。米は神戸市産だが地元の関係機関に量の確保や品質面などをご理解いただいたうえで、適正な価格で調達しており、懸念されているようなことはない。

- ・給食費は何年か毎に見直すとのことだが、食育についてもできていない学校があるならなぜできないのか、毎年でもいいので話し合うのが本当の教育のあり方ではないのか。

この会議で食育をやれというだけでなく、その検証も定期的にやってもらいたい。

(事務局) 食育については、全小学校・特別支援学校で「食育推進委員会」を設置し、各成長段階で年間どのような食習慣を身につけさせ、どう理解を育むのかを組織的・計画的に推進している。当委員会で各校の成果をご報告することは検討させていただきたいが、食育はいずれの学校もそれぞれに応じた形で取り組んでおり、各学校で検証を行い次年度の食育に活かしていることをご理解いただきたい。

- ・神戸市の小学校の教育研究会に栄養教諭や学級担任などで構成される食教育部があり、食育に関して先進的な授業研究を行っている。また、どの学校でも食育を推進するための全体計画に基づき授業や食の指導に取り組んでいる。
- ・栄養教諭が家庭科や社会科など身近な学習にもっともっと入っていけるなら意義深い。人員の関係でなかなか難しいこともあるが、教科指導を通じた食指導にも取り組んでいる。
- ・歯磨きは手洗い場という施設面の課題や給食指導だけで厳しい給食の時間的な制約をご理解いただきたい。
- ・前回の改定時と比べ主食が+5円、牛乳が+10円値段が上がり、望ましい副食・副菜とデザートを考えると30円前後の見直しは妥当。行事食と兵庫の郷土料理、季節の料理・季節の食品を使った料理、この3つは最低限、絶対回数を減らしてほしくないと思う。行事食は家庭で学ぶことがほとんどなくなっており、郷土料理も自分達が誇れる料理ということでいずれも学校給食で大きな役割を担っている。また、季節のものは栄養価も高く、子供達に今の季節のものはこれだということを学んでほしい。
- ・文部科学省の摂取基準は地域の状況に応じ柔軟に使用する基準だが、神戸の給食で成長期に必要な鉄分・カルシウムと、体調を整えるという意味での食物繊維が低いのは課題である。もっと副菜などを十分にとらないと栄養価はあがらないので、給食費の見直しは当然だと思う。
- ・食の質を上げて、本当においしいものを食べないと食育につながらない。食育がきちんとしてできるようにするには、どれだけの値段の給食を提供をすべきなのか考えるべき。また、食物の命をいただいているということ子供達が実感するにも食の質を上げることは必要。
- ・肉を均等な比率で出すのは家庭でもなかなかできないのでせめて給食でできたらと思う。また、野菜の量を増やすのも重要だと思う。

(事務局) 鉄分の不足の話があったが、鉄分は牛肉に多く含まれており、多くの食物をとることが栄養価を高めることにつながると考えている。

- ・吸収のよい動物性鉄分のなかでも牛肉の鉄分は特に吸収がよいため、牛肉を増やすことも大切である。また、食物繊維からみると野菜が必要で、食材はある程度の量や種類をとらないと栄養価は確保できない。今副食にしわ寄せがきていて、栄養学的には問題だと思う。
- ・海に恵まれている日本では海からとれるおいしい料理が和食の基本の一つだと思うが、今回の案ではその文言が見当たらない。魚など海の料理はどこに含まれているのか。

(事務局) 資料では変化を中心に記載しており、魚については従来から使用しているため記載をしていない。価格帯の高い食材の使用や使用拡大というなかには魚も含まれているが、分かりにくいので表記を工夫したい。

- ・旬のものは給食で出せているのか。

(事務局) 食材価格が厳しい状況だが、毎月の献立に季節の野菜を中心に取り入れており、学校にも給食に使用している季節の食材の情報を提供している。絶対に残しておきたいものは季節の食材、最低限の生の果物を残しているので安心してほしい。

- ・例えば「ちまき」といった行事のデザートが出たときも、笹で巻いてとか中国には同じ名前前で別の食べ物があるなどと、忙しい給食指導の時間でも子供達との会話を通じてちょっとした食育ができていた。行事のデザートが年6回でもあれば食育に貢献すると思う。
- ・学校で教えることだけではなく、行事食などについて給食の時間や家庭で親子間で話すことも全部食育だが、そのような家庭も減り、そのため学校で取り上げてやっていると思う。デザートは子供の楽しみで増やしてほしい。
- ・260円という試算が出されているがこれで大丈夫か。

(事務局) 今回は充実案のモデルを使用し、実勢価格で試算を行った。また、今回3年毎の改定期間や定期的な検証、社会情勢の変化への対応などのしくみもご意見いただいております、大きな変動があったな場合にも対応できると考えている。

- ・一食+27円の給食費の見直しは許容範囲で、特に副食価格が低かったのも、これを増やし子供によい給食を提供するというのは総論で賛成だが、疑義のある人も出てくると思うので以下のことを踏まえるべき。

小学校の学習指導要領では、学校における食育の推進等は体育だけではなく様々な時間を使い適切にやることや、その指導を通して家庭や地域社会と連携し、日常生活でも健康等に関する活動ができるよう促し、生涯を通じた活力ある生活の基礎が培われるように配慮するとあるがこの検討会での意見を含め、基本的にはこれにすべて網羅されている。これを実践すればよいと思ううえで、3つほど気になる。

1 点目は、今は保護者が子供の就職先に口を出したり、大学の入学・卒業式に積極的に出席するなど保護者の学校に対する関心が高くなっており、コミットというか情報を必要としている。そのため給食の大切さをきちんと保護者に伝え、場合により給食にまつわることに助けてもらうよう事務局やこの委員会が努力すべきだ。利害関係者である保護者に可視化や見える化し、伝えることが出来たかどうかは不可欠であると思う。さらに地域社会も巻き込んで「給食っていいよね」と言ってもらえるものに仕上げないといけない。

2 点目は、大学では孤食化が進み一人席を設けたり、朝食を抜く学生向けに学食で朝食を提供するなど対応しているが、少なくとも小学生レベルでは食事に関することをしつづけたら、学ばせて習慣づける必要があると思う。学校給食はこれを通じて食育や自分の人生、食べ物に対する畏敬の念や尊敬を学べるチャンスである。神戸市は選択式とはいえ中学校給食をやっており9年間そういったものを学べる。そういったことも意識してやっていくべきだ。

3 点目は給食費を見直した後、2~3年毎に見直すのはもちろんのこと、理想の給食に向けて引き続き議論することをしたほうがよい。やりっぱなしではなく、事後評価、例えば受け手の子供達にも満足度調査でヒアリングをして、それ聞いた保護者の給食の評価も定期的に聞き、フィードバックするというのを続けていかないといけない。

- ・PTA も年度ごとに変わるが、保護者も何かを残していかないといけない。この会に参加し食育などの学校の取り組みを知ったが、学校でやってもらっていることを保護者に知ってもらわないといけない。教育委員会からの通知だけだと保護者には十分伝わらないこともある。PTA は社会教育の一環で、保護者として社会教育を子供に教える立場であり、学校や教育委員会と一緒に食育や様々なことを教えていく、大人の背中を見せるのが PTA の役割だ認識して活動しているので、当委員会での話を研修会などの中で給食のあり方などを保護者に訴えることをしたいと思う。このような話し合いを持った上でやっていかなければという気持ちを持たしてもらふ会は本当にありがたい。保護者代表が保護者にやっていきましょうと言えればよいが、十分に説明できないこともあるので話していただく場を作らせていただいて、教育委員会だけをお願いするのではなく PTA も協力してやっていけたらと思う。

(事務局) 学校給食は 3 食のうちの 1 食に過ぎず、学校給食でしかできないことがある一方、食習慣など家庭と連携しなければならないこともあり、情報共有についていろいろ工夫したい。いろいろお願いすることもあると思うが協力をお願いする。

- ・自分自身はこの会に参加したので献立作成の苦労や給食費の改定幅が妥当ということも理解し賛成している。自分の関わっている PTA の保護者には説明して理解を得ているが、大多数の保護者はここでの情報を知らないで、いきなり給食費の見直しのお話をし出す前に順を追って保護者に情報提供をしてもらえたら見直しの額も理解が得られやすいと思う。自分も発信していくのでそのあたりの情報発信をお願いしたい。

(事務局) 給食の現状などの情報発信を工夫していきたい。

- ・3 回の委員会を通じ各委員の意見を聞き、食育を担い、献立を作成する立場として身が引き締まる思いだ。給食費を見直した場合は食育の教材としてさらに献立の工夫をしていきたい。
- ・給食は一日の中でも特に子供が楽しみにしている時間で意欲にもつながる。
- ・子供が楽しみにできる給食にするのは有意義だと思う。
- ・食材調達をする立場からは給食の内容について PDCA による検証システムを取り入れるのはよい。ただ、「給食費の値上げ」という言葉について、「値上げ」というのは内容がそのまま「値段」だけが上がることだが、この検討では、給食の内容を充実させるということを第一に考えてそれに伴い給食費の見直しが必要となる議論をしたので、保護者に正しく伝わるよう表現を工夫したほうがよい。
- ・この会では各委員がそれぞれの立場で子供の心と体のためを考えており、今後も実現に向けてそれぞれの立場で支援することが必要だと思う。
- ・特別支援学校では小～高の子供が小学校と同じ給食を食べている。特別支援学校の子供には、流動食や胃ろうで直接胃に流し込む子供など、給食がどうしても必要な子供達がいる。また給食を楽しみにしている子供もいる。食育を学校運営の中で活かしていければと思う。